

# 2017-2020新体操採点規則確認事項の伝達について

平成29年6月26日

公益財団法人日本体操協会

審判委員会 新体操女子審判本部

## 1、確認事項通達の理由

2月の1種義務研修会及び3月の福岡、兵庫におけるブロック研修会、4月の全国実務研修会、5月の実務研修会を通じ、新ルールの周知徹底を図るために新体操審判本部より伝達を行って参りましたが、この間、全国の皆様から多くの質問を頂き、正しく採点実務を行うためのルール伝達の不足を感じました。

上記の理由から審判実務を行う中で、解釈の統一や寄せられた疑問点を解決し、今後行われる全国大会に備える必要があると判断致しました。現在国内では、2月から5月に実施した研修会の伝達内容と FIG から出されたエラータを採用し審判実務を行っております。基本的に伝達内容に変更はありませんが、ルールの解釈に見解の違いがある点と具体的な指示が不足していた点を中心に下記に確認事項をまとめました。以下の伝達事項につきましては、下記に基づき適用致します。周知徹底のほど宜しくお願い致します。

## 2、通達内容の適用開始期日

- ・平成29年7月20日より適用開始とする。
- ・ホームページ掲載日より7月19日までは移行・伝達期間とし、審判実務上の適用は各競技会主催者の判断で実施する。その際、伝達不足による選手への影響を十分考慮すること。
- ・全日本新体操クラブ選手権・インターハイ・インカレ・全中・全日本新体操団体選手権・国民体育大会・全日本新体操ジュニア選手権・全日本新体操選手権にて確認事項を適用する。

## 3、ルール確認内容

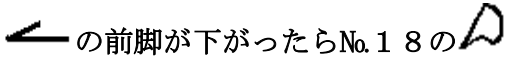

### I 個人団体共通事項

#### ★D12

◎BD（身体難度）※難度のカウント・ノーカウント・ダウングレードの確認

①P32～ 8. 2ジャンプ/リープの難度一覧

- ・No.1～4 360° なければノーカウント。
- ・No.5～8 360° 回っても価値は変わらない。
- ・No.9～12 0. 2の難度は180° なければ、0. 1の難度になる。  
0. 1の難度と0. 2の難度は、違う難度である。
- ・No.15 0. 2の難度は180° なければ、0. 1の難度になる。
- ・No.17 3つとも違う難度である。折り畳んだ下の脚の腿が水平になること。
- ・No.18 2つは違う難度である。
- ・No.19 No.18の0. 1の難度へのダウングレードはない。踏み切りは、片脚/両脚のどちらでも同じ形となる。


- No. 2 0  の前脚が下がったらNo.1 8の  0. 1の難度にダウングレードする。



は膝が下がり頭と足が離れたらノーカウントとなる。

- No. 2 1 No. 2 0とは違う形となる。
- No. 2 2 2 — と 3 — は同じ形となる。どちらかひとつしか使えない。


※ 3 — の場合

手具操作 



この場合は全てノーカウント。

フォーム × × ○



手具操作 

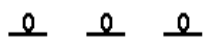


この場合は0. 3の — でカウント。

フォーム ○ × ×



- No. 2 4 切り替えの開脚ジャンプは2つ目に開脚があれば良い。
- No. 2 9 踏み切りは、片脚/両脚のどちらでも同じ形となる。
- No. 3 0 はさみがなかった場合は基本の形でカウントする。脚を曲げて入っても、伸ばして入っても同じ形となる。
- ジャンプのシリーズとは・・・P31、8. 1. 5 2つまたはそれ以上の連続したジャンプ・・・  
2回または3回または4回・5回でもOKである。

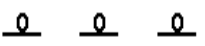
• シリーズ  



フォーム ○ ○ ×

※3回目のジャンプがノーカウントになったら、2回目のジャンプの形が良くても1回目のジャンプのみカウント。



フォーム ○ × ○


※2回目のジャンプがやや基準を下回りノーカウントになっても1回目と3回目はカウント。



- 後屈を伴うジャンプは、着地の最後にて後ろに傾いたジャンプはノーカウント。  
(後屈のまま着地する)



## ②P3 9～ 9. 2 バランス難度の一覧表

- No. 1 上体はアーチが見えること。



- No. 2  は、頭が肩より下がること。

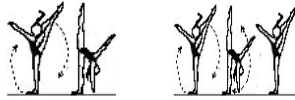
- No. 4 踵が落ちたらノーカウント。  は0. 2、  は0. 3の価値となる。

スタートの形が基本となるためシンボルマークを 、  に訂正。

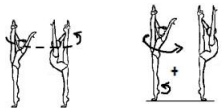
- No. 1 2 動脚は頭を超えること。
- No. 1 7 上体は90°以上。90°以下はノーカウント。ストップポジションがあること。
- No. 1 8 頭と肩は床につかないこと。ストップポジションがあること。
- No. 1 9 頭と肩は床につかないこと。上体は垂直。
- No. 2 0 0. 1の難度は4つとも違う形である。D は上体が反っても反らなくても良い。
- No. 2 1 フェットバランスにおいて使用した難度構成要素は、単独で実施することはできない。

T (0.5) この形の動脚は、頭を超えていないものは F (0.3) にダウングレードする。

- No.22 0. 1の難度はどれかひとつ。



- No.23 どちらかひとつ。踵を上げても下げても同じ価値である。



- No.24 どちらかひとつ。踵を上げても下げても同じ価値である。

また、軸足の膝を曲げて行っても良い。

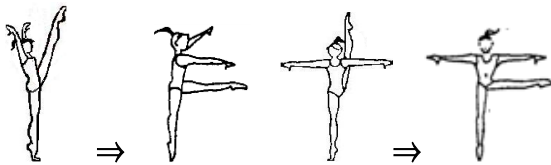
- スローターンのインパルス（きっかけ）が90°で一気に回るような実施は難度全体がノーカウントとなる。



- はNo. 1の0. 1にダウングレードする。



- はNo. 1 0の0. 2にダウングレードする。



- ダウングレードできる。



頭と脚が近ければカウント。脚が下がったら



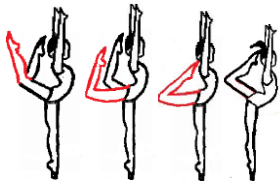
でカウントする。



は上体が水平であれば



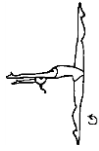
0. 3でカウントする。



・ ダウングレードは、 の 0. 2 となる。

### ③P4 7～ 1 0. 3 ローテーション難度の一覧

・ No. 4 2つの形があること。(胴の後屈と前屈)



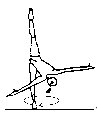
・ No. 6 腰にアーチができない形を保つこと。



・ No. 1 1 頭に近い開脚であること。



・ No. 1 2、1 3 足が頭に近いこと。最後だけ頭に近くなる実施はノーカウント。



・ No. 1 3 パンシェターンは、回転の最後でインパルス（スローターンのような回転になったもの）が入った部分は回転とみなさない。

・ No. 1 5 十は、ドゥバンの形でもアティチュードの形でも実施することが可能。アティチュードの形で実施した場合、単独のNo. 1 4 のアティチュードターンも使用可能。



・ No. 1 7 開脚と胴の後屈があること。



・ No. 2 1 何回転回っても良い。手で床を押さないこと。

・ すべてのローテーションは、最初の回転に正しいフォームがあるかどうか確認する。

・ 形の変化を伴うピボットは、1回転目がノーカウントの場合、すべてがノーカウントとなる。

・ 180° のピボットは、回転が増えるごとに180° ごとに0. 2ずつアップする。



### ◎ダンスステップ

・ 中断や0. 3のミスが起こった時にダンスステップはノーカウントとなる。


◎手具要素

①P17～3. 3各手具特有の基礎と基礎でない技術グループ



《ロープ》

- ・ 2重跳びは⇒
- ・  膝でしごきながらキャッチした場合、基礎としてみなすが、Rなどの加点要素にはならない。  
落下したらノーカウント。片端を落としたらノーカウント。
- ・ 二つ折りのらせんとは、二つ折りにしたロープを縦軸で回転させる実施。  
(2月には回しとして解説したもの、○○ となる。)

《ボール》

- ・  は中くらいの投げまたは大きい投げからの受けである。  
身体で支えたり、両手を出したらノーカウント。  
片手で取るというアクションがあり、反対の手で軽くサポートした場合は、加点はないが、基礎としてみなす。

《クラブ》

- ・  は投げと組み合わせることはできない。
- ・  は 360° の回転を伴うこと。ジョイントしたクラブの小さな2本投げ受けの場合も、水平に 360° の回転が必要である。

《リボン》

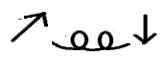
- ・ ブーメランは、投げたものは必ずキャッチすること。

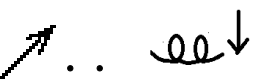
★D34

◎R




①P24～5. 回転を伴ったダイナミック要素


- ・ 同じ投げでも、Rはカウントする。同じ投げの基準・受けの基準はカウントしない。
- ・ 同じ回転の繰り返しがあつた場合は、Rはノーカウント。  
※1回目のRシェネ・前転、2回目のRもぐり・前転・・・の場合は2回目のRは全てノーカウント。




・  OK

・  NO 投げの後ステップが入ったらノーカウント。

・  OK 何歩走ってもカウント。

・  3回転目と  、  の基準はノーカウント。  
受けの基準の視野外は成功したらカウント。

- ・  は全ての回転にかかること。軸や高さの変更は、回転と回転のみにかかるということである。

- ・  は取りながら回転しているときに加点する。
- ・ クラブの2本投げは2つ目の投げにも追加の基準を加点できる。
- ・ 滝状の投げの3回目が投げ返しで実施している場合、 の追加の基準を加点できる。
- ・  はジャンプ以外にも加点できる。
- ・ R中のイリュージョンが連続する場合は、足や手をつくこと。0.2以上のBDになるため。
- ・ Rの受けにおいて、床にバウンドさせてダイレクトに受けるものは認める。

## ◎AD



- ・ 基礎または基礎でない(中くらいまたは大きな投げからの受けを除く) 0.3  
     回し・らせん・だ形・ロープのエシャッペなど。  
     小さな投げと受け・リボンのエシャッペ・ブーメラン・  
     ボールのトラストなど。
- ・ 投げの **AD** については、受ける際に落下してもカウントする。(ブーメランは除く)
- ・ **AD** の受けにおいて、床にバウンドさせてダイレクトに受けるものは認める。

## II 団体


### ★D12

#### ◎BD

- ・形の変更を伴うピボットは1難度とし、団体でも使用可能である。

3名の選手が 、2名の選手が  を実施しても、3種類の難度とは考えない。

#### ◎ED

- ・交換における座  は、形が違えば、投げと受けの両方に実施し、加点される。
- ・交換における0.1のBDは、投げか受けのどちらかひとつに実施し、加点される。
- ・基準のローテーションは、360°必要であり、180°は許可されない。  
また、形が違えば、投げ、空中、受けのすべてに加点することができる。
- ・ローテーションと難度は両方が加点の対象となる。  
受けの際にもぐり回転をしながら受けた場合は、回転の0.1ともぐり回転(BD)の0.1が加点される。
- ・交換の基準で投げのみに許可されるもの：  
クラブの2本投げ、フープの斜め投げ、開いたロープの投げ、突き/転がしからの投げ、フープの軸回転を伴った投げ、クラブ(1本または2本)の水平面での回転を伴った投げ
- ・交換の基準で受けのみに許可されるもの：  
ロープの両端の受け、ダイレクトな転がしの受け、ボールの片手受け、1本のクラブを保持し2本目を受ける、フープのダイレクトな回しながらの受け、ロープクラブのミックス受け
- ・EDの数が多いと言う減点はなく、もし6個目のEDがあったら、ノーカウントで減点なし。
- ・低い投げの場合、選手間の距離があること。または、選手間の距離がない場合、高さがあること。
- ・EDにおいて、受けるとき、床にバウンドさせてダイレクトに受けるものは、認めない。





### ★D34

#### ◎連係

#### 《CR/CRR/CRR》

- ・CR/CRR/CRRRにおいて、主要な回転を行った人は、必ず受けること。  
主要な回転を行った人が受けを投げ返して別の選手が受けた場合などは、ノーカウントとなる。

#### 《 複数投げ・ 複数受け 》

- ・1つの連係では、 複数投げ、 複数受けのどちらか1つの加点となる。
- ・手以外  視野外  の追加の基準は有効である。
- ・複数投げは、次々に投げるものはノーカウント、あくまでも同時に投げること。

- ・複数投げは、複数同時に跳ね返すものは認めない。(床に落として複数と同時に跳ね返すようなものなど)
- ・複数投げは、1人で複数の手具を投げること。何名かで投げるものは認めない。また、中くらいまたは大きい投げであること。
- ・複数投げを実施した1人の選手が、投げた手具を受けることは認めない。但し、その1つを投げた選手が受け、もう1つを他の選手が受けたものは有効である。
- ・複数受けは、1人で複数の手具を受けること。クラブのジョイント、ボールにロープを結びつける、等、手具同士で固定して連結し合っ一つになっている場合、複数受けの加点はない。
- ・複数受けは、受ける選手とは異なる選手(達)からの投げを同時に受けること。受ける選手が1つの手具を投げ、別の選手がもう1つの手具を投げて受けるものも認める。

## ◎アクロバット

- ・同じ回転は、Rで1回、ED/C(CR, CRR, CRRR)で1回、実施することができる。

## ◎禁止要素

- ・床上での側方または前方開脚にて静止、が追加されている。少しでも脚を動かすようなものや直ちに違う形に移行するものであれば、禁止要素とはみなされない。

## Ⅲ個人・団体

### ★E12

- ・リズムの減点は動きの間のハーモニーの減点そのつど **0.1** 最大 **1.0** の減点と演技全体がリズムと合っていない **1.0** の減点で **2.0** 減点することはない。2項目合わせて最大で **1.0** までの減点である。
- ・団体における同時性の減点もリズムと同様にエラータにおいて演技全体で選手間の同時性に欠ける **1.0** の減点が追加になっているが、そのつど **0.1** の減点と合わせて最大 **1.0** までの減点である。

### ★E3～6

- ・選手の静止は個人では削除になっているが団体では削除になっていないので注意する。
- ・不正確な軌道 1歩移動して空中にて受けるは各選手 **0.1** の減点  
2歩またはそれ以上移動しての減点は全体で **0.3** の減点